

## 2013年度事業報告・決算承認 定時社員総会

6月21日に開催した京都保健会定時社員総会は、2013年度事業報告、決算、定款変更等の議案を全員一致で承認し、役員を補充しました。承認された事業報告、決算の概要は次のとおりです。

### 1. 事業活動の到達

中央病院は、本館南2階病棟（産婦人科・乳腺外科）の4床を西館へ移動し、西2階病棟（障害者施設）52床、西3階病棟（医療療養）50床を4月より稼動しました。回復期リハビリ病床を12床増床し急性期・がん等のリハビリテーションを強化する計画は医師体制が確保出来なかったこと等により今年度着手となりました。



大腸肛門病・腎循環器センター、化学療法、緩和ケア、乳腺外科、泌尿器科、リハビリテーション科等、各診療科の強化を進めながら、救急、集中治療、急性期・がん等のリハビリテーション強化を

はかり、認知症ケアチームを発足しました。細菌検査室を開設、感染管理の質向上をめざしました。

新たに、医療機能評価付加機能評価（緩和ケア病棟）を受審しました（2014年5月認定）。臨床研究の活性化、QI指標にもとづく医療活動を評価し医療安全の質向上にもとづく医療活動を評価し医療地域連携セミナーを開催しました。設備環境整備では手術室空調を改修、療養環境整備では全職員の総意を集め美化推進チームによる療養環境の改善をすすめました。

最重要課題の医師確保と養成（研修含む）分野では、2013年4月から初期研修医7名、後期研修医1名が研修を開始し、2014年度初期研修医は3年連続フルマッチしました。合わせて、専門医制度に対応できる後期研修の整備、医学部教育（実習受け入れ）等を継続強化してきました。あらたに、救急科専門医認定施設、日本リハビリテーション医学会認定基幹研修施設となりました。認定看護師は2014年度に計画している分も含めて、認知症看護、脳卒中リハビリテーション看護、救急看護、集中ケアコーラスに研修派遣し、帰任すれば計12名となる予定です。教育病院の機能を高めるため、2014年3月に教育研修センターを開設しました。

吉祥院病院は現地建替を無事遂行し、京都市初の複合型サービス事業を10月から開始、「機能強化型在

宅療養支援病院」の機能を前進させる形を整えました。外来では新しい慢性疾患医療活動計画が下半期より軌道に乗り始めました。入院は、前期を上回る占床率と入院数を実現しました。リハビリ施設基準の届出を行い本格的に再開しました。在宅医療では在宅専門医研修施設の認定を受け、在宅患者入院連携パスの運用を試みました。

京都協立病院は、「在宅医療の強力なネットワークとしてさらなる強化をはかる」、「友の会とともに一部署一地域貢献活動をすすめる」、「防災マニュアルの見直し」、「高齢者医療・ケアのさらなる向上」、「予算を達成し、次期事業を可能にする経営と組織を追求する」ことを事業・経営活動方針の柱にして活動を進めました。前年より更に厳しくなった医師体制の下、県連の支援も受けて奮闘しました。

法人全体の入院患者件数は99・9%、▲11人、延患者件数は100・3%、725人でした。件数は中央減、吉祥院・協立微増、延件数は中央・吉祥院微増、協立減です。在宅含む外来患者件数、延件数はともに減少しました。在宅は増加傾向であり、純粹な外来患者減が続いています。1人医師体制になった吉祥院こども診療所の患者減が特記されます。健診は110・8%で吉祥院の増加が顕著です。ワクチンは小児ワクチンを中心に減少しました。介護事業では、訪問看護（訪問リハ含む）は件数・延数とも105%と伸ばしました。訪問介護はわかばの減少が顕著です。職員体制の縮小が主要因です。通所介護はあやべを除き苦戦、利用者確保に成功していません。居宅支援は北西部で人事異動を行い、共通の目標にむかって改善がはかれています。